

## 加工・業務用野菜取組事例 ⑩

調査日(更新日)	平成26年12月2日(平成一年一月一日)
----------	----------------------

### 1. 事業者基本情報

事業者名	(株)マルハ物産
代表者名	代表取締役会長 林香与子
所在地	徳島県板野郡松茂町住吉4-3
連絡先	TEL:088-699-2345 FAX:088-699-2757
ホームページ	<a href="http://www.maruha.org">http://www.maruha.org</a>
連絡先担当者	管理部 次長 大鋸(おおが)史郎

### 2. 経営の概要

経営形態	株式会社
事業概要・取扱商品	食品加工業 取扱商品:れんこん、きのこ、たけのこ、にんじん、ごぼう、ふき他。 国産れんこんについては、自社農場を経営し、生産、出荷、加工及び小売販売まで一貫した経営に取り組んでいる。
販売額	25億3千万円(平成25年5月期決算)
労働力・構成員	従業員51名(うちパート0名) うち加工部門従業員26名(うちパート0名)
生産・加工施設	徳島工場 関東工場 江蘇得宝食品有限公司 河北満路華食品有限公司(平成26年4月) 協力工場10社 農業生産法人「(有)マルハファーム」(平成15年3月設立。経営規模:17.2ha)
経営の推移と取組のきっかけ	昭和33年、岡山県倉敷市において、先代社長が酢れんこんの製造を始める。日本初の酢れんこん市販用販売となったが、同市だけの原料供給では足りず、当時日本一の生産であった徳島県に家族で移転した。 徳島県のれんこん生産の振興及び耕作放棄地の活用を目指して、平成15年に(有)マルハファームを設立した。

### 3. 加工・業務用野菜の取組概要

原料入荷関係 (時期・産地・量)	全体の取扱量の9割が中国産で、1割が国産。国産のメインは茨城県産で、量は少ないが、形の良い徳島県産を酢れんこん用として使用している。
主な出荷先	売上高の99%が企業との取引。残り1%がインターネット等の直接販売。
販売額	25億3千万円(平成25年5月期決算)
出荷先からのニーズ	バラツキが少ない規格で、小ぶりで見栄えの良い徳島県産のニーズが高い。徳島県産と茨城県産では色目や大きさが違うため、産地が変わる時には、事前に説明を行っている。
その他特徴的な事項等	(有)マルハファームが生産、集荷、一次加工したれんこんを使用しており、水煮れんこんや酢れんこん、スイーツ等の製造・販売を行っている。 徳島県産や茨城県産の国産れんこんを利用することによって、輸入れんこんが主流である業界での販路拡大を行っている。 また、(有)マルハファームは、生産者との間で年間の仕入価格や購入数量を設定した売買基本契約を締結し、地域農業での経営基盤強化を図っている。
取組の成果	れんこんをはじめ、さつまいも(鳴門金時)、かぼちゃ、ごぼう、ほうれんそう等の地場農産物を利用して、地域ブランドの商品化に取り組んでいる。瀬戸内ブランド認定商品(おいものスプレッド、れんこん白あんのスプレッド等)の開発にも取り組んでいる。
今後の展開	創意工夫によって、主力商品である水煮製品等とは異なる菓子部門への進出を進めている。また、瀬戸内エリア特有の農産物を利用した商品を開発し、「瀬戸内ブランド」の認定を受けている。 国内外に広く、れんこんが認知されることを目指している。
生産者や産地に対する要望等	地域の農産物を使って新商品の開発に取り組んでいる。めずらしい食材があれば、連絡いただきたい。 地産地消になればと、徳島県産を中心にいろいろ考えている。少量でも商品化できるように、小規模なラインを導入することも検討している。
事業者から一言	れんこんの取扱いを半世紀にわたって行ってきた。地元の農産物、食材を維持継続していくことが、これからの役割、使命だと考えている。 利益だけ考えていては、地元産だけを扱うことは難しい。地元徳島県産との密着を目指し、れんこん以外の地域特産物も取り扱っていきたい。

